

メッセージアウトライン

ヨハネ20：19~23 「復活の主の現れ」

「その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった」(19) この日曜日の早朝、主イエスは死より復活された。最初に主に出会ったマグダラのマリヤはそのことを弟子たちに告げたが、弟子たちの反応は鈍かったようである。彼女の知らせを聞いてもまだ弟子たちは恐れており、集まっていた所の戸は堅く閉めてあった。そこへ突然「イエスが来られ」たのである。そして「平安があなたがたにあるように」と言われた。これはいつ敵が来るかと恐れ、心に平安がない状態の弟子たちにとって最適のことばであった。恐れている者に対して救い、慰め、平安は神の側から来るのである。さらにイエスは彼らにご自分の手とわき腹を示された。(20) その傷跡を見て彼らは、本当にここに立っておられるのが主イエスであることを確認して喜んだのである。

イエスはもう一度「平安があなたがたにあるように」(21)と彼らに言われた。二回もこのことばが繰り返されていることによって、主が与える平安がいかに弟子たち信仰者たちにとって大切なものであるかがわかる。恐れているは力ある働き、効果ある働きはできない。「父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします」父なる神がイエスをこの世に遣わしたように、今度はイエスが弟子たちをこの世に遣わして福音を宣べ伝えさせようとしておられるのである。この使命はすべての弟子たち、クリスチャンたちに与えられている。

「そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受けなさい』」(22) 聖霊は使徒2章のあのペンテコステの日から与えられたと考えられている。→使徒2:1~4 これはイエスが天に上り約束の聖霊を送られたからである。→ヨハネ6:7~8 しかしそれよりも以前から聖霊の働きはあった。→1サムエル16:13, 詩篇51:11, 伊ザ63:10 今イエスはまだ天に上っておられないが、まずこの弟子たちにその使命に立ち上がらせるために、みこころに従って聖霊を与えられたのである。そして彼らが実感として受け取れるように息を吹きかけられたのであろう。

「あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります」(23) これは私たちがイエス・キリストの代理人のようになって罪を赦したり赦さなかったりする力を持つと言うことではない。それは、クリスチャンたちが聖霊の力によって福音を伝え証していく時、それを聞いて信じる人々は罪を赦され、聞いても信じようとしない人々は必然的に罪のまま残されるという結果になるということである。

→ヨハネ3:17~18,36 これはイエスの十二弟子や初代教会の人々だけに語られたことばではなく、すべての時代の弟子たち、クリスチャンたちに向かって語られていることばである。私たちクリスチャンに与えられている使命は大いなるものであり、その宣べ伝える福音のもたらす結果はまさに人類を二分してしまうものなのである。イエスは「聖霊を受けなさい」と言われ、弟子たちはその聖霊に満たされ、導かれ、より頼んで行動し、福音を宣べ伝えていった。私たちも与えられている聖霊により頼みつつ、喜びと平安をもって主イエスから託された大切な使命を果たしていく者となりたい。